提言第17号　中心静脈カテーテル挿入・抜去に係る死亡事例の分析－第2報（改訂版）
事例17
＜事例概要＞ 気胸 ① 70 歳代、大動脈弁閉鎖不全症に対する弁置換術後。認知症、誤嚥性肺炎の患者。 ② 末梢血管確保困難のため、中心静脈カテーテルを留置予定。 ③ BMI 13.8 kg/m^2。抗凝固薬を服用しており、休薬なし。 ④ 右内頚静脈より作図法で穿刺。長針を使用し、3 回目の穿刺でカテーテルを挿入したが逆血なく抜去。抜去されたガイドワイヤー先端が折れ曲がっていた。穿刺約1 時後、経皮的動脈血酸素飽和度（以下SpO_2） 80%台になり、酸素投与、喀痰吸引で改善。3 時間後、経管栄養開始後に喘鳴出現。X線で右気胸を認め、胸腔ドレーンを挿入したがSpO2 は徐々に低下。気管挿管を行い改善したが、穿刺翌日、血圧60 mmHg台、SpO_2 70％台へ低下、CT で気胸の悪化を認めドレーン位置の調整を行ったが呼吸状態が悪化し、同日死亡。 ⑤ 死因は、緊張性気胸に伴う呼吸循環不全。胸膜に癒着した肺組織にドレーン先端が迷入し脱気不良となった可能性。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。